

町小だより

令和5年
10月30日
No. 679
御免町小学校

花壇の花に水と心を

校長 相澤 祐助

今年の夏は異常な猛暑、いや酷暑と言っていい天候でした。農家の方も、酪農の方もみんな作物や動物の生育や命を案ずる日々だったと聞きました。水やり、餌やりなどどれ一つとっても気の抜けない、神経を使う毎日だったことでしょう。

御免町小学校も、毎年、1年生と2年生の教室前の花壇で花を育てています。今年も6年生を中心に、全校で花を育てるという目標を立てて、花壇の取組を始めました。花の苗を選び、6年生と1、2年生が一緒になって苗を花壇に植えたのが6月9日でした。ウイルス禍で他の学年との交流が制限されてきましたが、今回、6年生と1年生、2年生が協力して苗を植えたのです。「こうやって穴を掘って、苗をポットから取って、根をほぐして植えるよ」6年生は土だらけになりながらも、優しく、丁寧に声をかけ、心を込めて1・2年生に教えてくれました。

その後、毎朝の水やり、草取りが始まりました。これは、「やりたい!」「やってあげたい」という子が、自分から進んでやってくれていました。1年生から6年生まで、まさに全校で花壇の花のお世話をしてくれていたのです。同時に、1年教室の前には「命のアサガオ」、2年教室の前には「ゴーヤ」をグリーンカーテンにしつらえ、栽培を始めました。7月中旬までは順調にきたのですが・・・。

夏休み前、厳しい猛暑が始まりました。全く雨が降らず、花壇の花たちがつらそうに見えたのでしょう。1学期の終業式で、児童会代表児童が全校児童に訴えてくれました。「夏休み中、花壇の水やりをやってもいいよ、という人はぜひ、お願いします。児童玄関前にノートを置くので、水やりをした人の名前や花の様子を書いてみてください」ここからが町小のすごいところです。なんと、毎日、毎日、誰かが花壇の花に水をあげ、草取りをしてくれていたのです。ラジオ体操の後、夕方に公園で遊んだ後、しっかりと水をあげてくれました。時には、お家の人も手伝ってくれていました。もちろん、退勤前に水やりをしてくれた学校職員もいます。それでも、なかなか厳しい夏でした。

6年生が立てた花壇のネーミングを紹介します。「みんなでカラフル最協花壇」「協力して植えた最幸花壇」「みんなニコニコ最鍛花壇」の3つです。町小の子どもたちみんなが酷暑を克服した花壇の花たち、10月になっても元気に咲いてくれました。

そんな時です。10月23日に、新発田市緑・花振興協会から花壇コンクールの審査結果の通知が届いたのです。「貴花壇は園・学校の部で最優秀賞に選出されました」私は児童会のみんなに口頭で伝えました。すると、みんな「やったー」と大喜びしていました。全校のみんなで、暑い夏、花壇の花たちに心を込めて水をやったという努力、事実が認められたのです。

そんな町小の子どもたちをいつも温かく見守ってくださっている。保護者や地域の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。